

政策提案「青葉生活30+〈プラス〉」の取組状況

2009年7月29日
横浜市会議員 山崎 誠

30の提案(政策テーマ)		これまでの取組状況と成果		具体化度
未来世代に向けて				
1	未来を拓く人間力をつけてあげたい。	授業づくり講座	教師力アップの取り組みを支援。総合的な学習の時間「横浜の時間」のプログラムを提案(グローバル教育ネットワーク、国際機関ITTOとの連携プログラム、がん患者支援プログラムなど)	
2	土の味を知っていますか?	プレイパーク	子どもの冒険遊び場「プレイパーク」を支援、公園の活性化、泥んこ遊びの復活を目指す。中期計画に整備促進が盛り込まれる(各区一箇所を目標に整備中)	
3	緊急対応。子どもの心の叫びが聞こえますか。	チャイルドライン	子どものいじめ電話相談「チャイルドライン」を支援。教育委員会のいじめ110番事業と徹底比較。チャイルドラインの有効性を実証。補助金を獲得。	
4	小学校に入る準備はOK?	幼保連携	待機児童対策として多角的な保育環境整備を提言。幼稚園を活用した保育の実現(認定子ども園)を研究中。	
5	プレハブ校舎が好きですか?	教育環境整備	美しが丘東小学校のプレハブ校舎建設に絡み、教育委員会の施設整備計画の問題点を指摘。プレハブ教室の利用実態のアンケート調査実施、プレハブの機能向上を目指したSBIRのテーマ設定を実現	
6	知的な冒険はどこですか。	図書館新設	図書館の新しい整備手法について提案。遊水池の上部利用、民間建物の利用、学校図書室と市民図書室との融合(あかね台中学校計画)など	
働く世代に向けて				
7	技術は国境を越える。世界の期待に応えたい。	海外ビジネスネットワーク	WBC(ワールドビジネスサポートセンター)の機能強化を提案。民間の感覚を取り入れたビジネスサポート、結果を重視した経済政策評価を提言。	
8	行政課題? そんなの課題ではありません、民間では。	横浜版SBIR	行政課題解決型技術革新事業SBIRの積極的な活用を提言。技術課題のテーマ数の倍増を目指す。プレハブ仮設建物の改善、機能向上のための技術開発にSBIRを活用。	
9	市との共同研究してみませんか?	横浜会議	横浜会議の活性化について提案。民間のノウハウを行政に取り込むための受け皿の整備、市民との協働の推進策について研究。	×
シニア世代に向けて				
10	遠くの親戚より近くの他人、地域三世同居のすすめ	ふるさと安心ネットワーク	在宅のお年寄りを地域で支える仕組みづくりに取り組む。情報システムの活用を研究。FAXを活用したお年寄りのご機嫌伺い、地域の情報配信についてビジネスモデルを検討中。	
11	元気で長生きの秘訣を知っていますか?	介護予防事業	介護予防事業の重要性、有効性に関して提言。介護予防事業の効果検証を要望。横浜版介護予防プログラムの整備を目指す。	
12	やさしく見守っていたい。	認知症グループホーム	認知症と認知症介護に関する正しい理解の促進に取り組む。医療と介護の連携による正しい認知症ケアの実現、グループホームの介護の質向上、介護従事者のネットワーク化を支援。	
安全・安心は何より大事				
13	マニュアルを作って行政は安心、市民は不安。	防災情報システム	桂小学校防災拠点において大震災等災害発生時の安否確認・共助支援のシステム構築に取り組む。文科省の安全・安心科学技術プロジェクトのモデル地域として、システムの開発と運用体制整備中。本年度、本格稼働を予定。(横浜国大研究テーマ) 横浜市の危機管理システムの検証、問題点を指摘、改善提案を進める。	
14	使える防災対策を! 防災対策には想像力が必要です。	減災の取組み	横浜市の防災訓練の実施状況を検証。シナリオに基づいた訓練からより実践的なシミュレーション型訓練への変更、改善を進める。	
15	街は危険がいっぱい! 転ばぬ先の街づくり	ユニバーサルデザイン	地域の危険箇所の情報収集(ホームページによる陳情のデータベース化)、改善要望、改善状況の管理実施中。町の安全確保のための新技術を研究。	

政策提案「青葉生活30+〈プラス〉」の取組状況

2009年7月29日
横浜市会議員 山崎 誠

30の提案(政策テーマ)		これまでの取組状況と成果		具体化度
自然環境はかけがえのない財産				
16	時には川を眺めて過ごしたい。	河川環境整備	河川の流域圏の考え方について研究中。地域、行政区をまたぐ河川を通して環境保全のための地域の連携のあり方について研究。(横浜国大研究テーマ) あわせて生物多様性の重要性について提言。	
17	やっぱりコンクリートの灰色より緑が好きです。	壁面緑化	ヒートアイランド現象の緩和のための都市緑化施策について研究中。壁面緑化技術の検証を行う。里山の緑の再生を目指し、潜在植生を活かした植樹、里山の緑をプランター化し都市緑化に生かす「里山ユニット」の有効性について実証実験中。(横浜国大研究テーマ)	
18	年々、夏が暑くなっていると思いませんか？	地球温暖化対策	地球温暖化防止の取組みの促進を提言。廃校を利用した地球温暖化対策の拠点創り、(仮称)環境教育研究センターの開設を提案、地球温暖化危機宣言を提唱。エネルギー消費を抑えるためのライフスタイル変革手法について研究中。	
19	いい汗流して、おいしくて、地球に優しい時間の過ごし方	市民農園	横浜みどりアップ計画立案にあたって、農地の保全策について議論を展開。市民農園の充実、地産地消の仕組みづくりを提案。	
20	海を見に自転車でいきたい！	自転車道ネットワーク	鶴見川サイクリング道路の整備について取組む。地元サイクリングクラブとの自転車普及のための青葉区協働事業への参画、サイクリングイベントを開催。自転車のマナー向上、サイクリング道ネットワーク整備の考え方について研究。	
芸術・文化がヨコハマを変える				
21	アーティストックで楽しい街はいかがです？	創造界限	横浜市が支援するZAIMのアーティスト(フランスス慎吾さん)との連携による、事務所を活用した絵画展の開催。身近なところで本格的なアートに触れる場を創る。	
22	目指せ！市民参加の世界音楽祭	ヨコハマ音楽祭	広告会社の専門家とヨコハマ音楽祭構想について検討。	×
23	政治家の事務所でカルチャーする。	コミュニティ形成	地域コミュニティ形成事業として、事務所を市民アーティストに開放、ハンドメイドショップ「小箱かのん」を運営。会議室は教室スペースとして利用いただく。¥150ヒルサイドつながりの森にも出展。	
市政改革のすすめ				
24	横浜市会って何をしているところ？	議会改革	視察のあり方の見直しについて提案。政務調査費の用途の明確化・管理の徹底、議員定数削減等の議会の改革の取組みを支持。	
25	電子市役所って、インターネットのこと？	行政のIT化	横浜市の電子市役所の取り組みについて検証。IT化の推進体制の見直し、システムの棚卸し、ITの効果的活用の推進等について提言。CIOの設置、全庁的なIT推進体制の創設を実現。	
26	自治会活動、面倒くさいですか。	自治会活性化	地元の自治会活動に参加。自治会活性化に関する課題や問題点について理解、研究を進める。自治会と行政の協働のあり方について研究中。	
27	民営化？どうして今まで公営企業だったの？	公共事業の民営化	交通局の民営化について検討。横浜市の事業と民間事業の比較、民営化のメリット、デメリットについて、事業採算性の課題等について検討。指定管理者制度の評価に取り組む。	
28	30万都市青葉区、鳥取県の1/2の人口を有しています。	区政分権自立	区を核にした行政システムの再構築を提案。区長の若返り(40歳後半で区長になれる)、区職員のローテーション制度の見直し等区政の活性化策を提案。区が主体的に地域のニーズに基づいて局の事業を選択できるマトリクス型予算編成を提案。(タウンニュース紙参照)	
29	現場を見ずして語るべからず。	ヨコハマから日本を変える	ヨコハマから日本を変える、中田市長の市政運営を応援。現場に出向き現場を見る、現場の声を直接聞く活動を実践。	
30	政治なんてきれい！そんな政治がいやで政治家になりました。	政権交代	開かれた政治、クリーンで誠実な信頼される政治を目指して日々、活動中。政権交代後の確かな政治の実現に向けて活動を進めます。	

30の提案(政策テーマ)		これまでの取組状況と成果		具体化度
新たな提案 + 〈プラス〉(代表的な取組)				
31	未知なる危機に備える。	新型インフルエンザ対策	新たな危機として顕在化した新型インフルエンザ対策について研究中。感染拡大を抑え、医療機能を維持するための情報管理手法、感染者への対応方法を提案する。(横浜国大研究テーマ。タウンニュース紙参照)	
32	真の国際人を目指した教育を実現。生きたコミュニケーションを目指す。	グローバル教育ネットワーク	インターネットを活用したグローバル教育ネットワークの教育現場への導入を提案。インターネットを活用して、海外の仲間との交流を可能にする。ネットワークを運営するNPO、アイアーン(iEARN)と連携。	
33	本格的な自然体験を実現、自然にふれあい心を育てる	阿寒自然学校構想	釧路市阿寒町の廃校を使った自然学校の立ち上げを提案。都会の子どもたちと大自然の北海道を結ぶプロジェクト。北海道のはまなす財団の支援を受けて実現化する予定。	
34	つみ木を通して、自然を体感する。みんなで遊ぶ楽しさを味わう。	森のつみ木広場	道志村の間伐材からつくられた1万個のつみ木で遊ぶ「森のつみ木広場」を企画、開催。Y150のつながりの森で18日間に渡り開催した。青葉区の協働事業にも採用され、今後、青葉区内各所での開催する予定。つみ木を通して「人」と「人」、「人」と「自然」のきづなを取り戻すことが目標。つみ木を通して子たちに自然の大切さ伝える環境教育を展開する。	